

編集後記

専修大学法学研究所所報第58号をお届けいたします。前号に引き続き、本号につきましても、専修大学法学研究所設立50周年記念事業の一環として、50周年記念企画を掲載する特別号として編集を行いました。

法学研究所設立50周年記念企画「法学研究所50年の歩み」には、石村修先生、梅本吉彦先生、榎透先生、白藤博行先生、新山雄三先生、晴山一穂先生、森川幸一先生、前川亨先生の8名の先生方よりご寄稿いただきました。また、本企画には、田口文夫先生より特別寄稿「一所員としての研究小史」をお寄せいただきました。各先生よりお寄せいただいたご原稿を拝見しますと、現役所員では認識していないような法学研究所設立の背景、研究所設立当初の運営面での苦労、今村研究室との関係など、大変興味深く、今後も所員が引き継いでいくべき話題をお示しいただいております。ご協力いただいた先生方のおかげにより、本企画については、法学研究所のこれまでの歩みを確認し、今後の研究所としての活動の展開を模索するうえで、非常に示唆に富む、設立50周年を記念するにふさわしい大変意義ある企画となったと思われまます。私ども現役所員は、先輩の先生方が法学研究所設立に込めた思いを引き継ぎ、有意義な研究活動を継続的に展開し、法学研究所を一層発展させていく責任を負っているのだと痛切に感じました。

また、本号には、新たに所員となられた先生方にご自身のご研究を紹介いただく「新所員研究紹介」との企画を設け、本年度より法学研究所所員にお加わりいただきました高橋寿一先生および中島弘雅先生に、研究紹介をご寄稿いただきました。それぞれの分野の最前線で活躍される両先生の重厚なご研究は、今後の法学研究所の活動に大きな刺激を与えて下さるものと思われまます。

また、増田英敏先生には、自著紹介として、2018年に公刊された編著書『租税憲法学の展開』をご執筆いただきました。本書については、本文中に掲載されている書評において示されているように、すでに学界において極めて高い評価を得ている研究書であります。その執筆陣には本学大学院において増田先生の指導を受け、その後研究者や税理士として活躍されておられる卒業生が名を連ねております。本書については、教え子たちにより増田先生の

還暦を祝賀する趣旨で公刊されたと示されており、まさに租税法分野で精力的な研究を重ねるばかりでなく、本学大学院教育において主導的な役割を担われている増田先生が積み重ねられたご研究と教育の成果として、法学研究所としても誇りをもって受け止めるべき研究書であると思われます。

澤山裕文先生には、2018年12月に開催した法学ワークショップの開催報告をご寄稿いただきました。本ワークショップにおいては、澤山先生を報告者とし、ご自身の博士論文を基礎としたご報告を行っていただきましたが、参加者との議論において澤山先生の博士論文執筆以来の研究課題の抽出、アメリカ法との比較法方法論についての議論、今後の研究の発展への指導などが示されており、研究報告および所員間の議論を通じた各所員の研究の発展を期待し、実施されている法学研究所主催ワークショップの成果が見事に達成された、極めて有意義な共同研究の機会となったものと思われます。

内藤光博先生には、2018年10月に本学神田校舎で開催された日本公法学会第83回総会の開催報告をご執筆いただきました。本報告記事では、開催校として、会員数1,000人を超える大規模学会を開催した経験が詳細に示されておりますが、これについては、今後、所員が責任者として、本学において同規模の学会開催を引き受けるにあたり、大いに参考となる記録と思われる。

法学研究所が主催している公開講座「現場からの法学・政治学」につきましては、本年度も、研究と実務の交流を通じた社会問題の解決を模索するための企画として、3つのテーマを取り上げ、「現場」の実務家からお話をうかがい、それを受けて本学研究者とフロアからの参加者が質疑応答を通じて問題と向き合う機会を設けました。ご多忙のなか、企画趣旨に賛同して下さり、寸暇を割いてご講演下さり、フロアからの質問にも丁寧にご対応下さった長沼善太郎様、林大悟様、原清様、高野芳崇様には、改めまして、心より御礼申し上げます。公開講座の実施に当たっては、森川幸一先生、稲垣悠一先生、鈴木潔先生にコーディネートの労をお取りいただきました。ご協力いただいた先生方にも、改めまして、厚く御礼申し上げます。

「現場からの法学・政治学」に関しては、多くの皆さまにお力添えいただき、無事に予定していた3年間の開催予定を終えることが出来ました。本講座の開催が、法学研究所の研究活

動の発展に貢献し、また参加者の知的関心の広がりの一助となることが出来たのであれば、運営に携わった事務局長として大変嬉しく思います。

渡邊一弘（法学研究所事務局長）

《お詫びと訂正》

所報57号の表紙に誤記がございました。

（誤）飯孝行→（正）飯考行

誤りをお詫び申し上げ、謹んで訂正いたします。